

「JICA NGO等提案型プログラム2025」

小規模NGOが組織面及び事業面で困難な状況を打開し組織として持続的な成長や活動の質の向上が図られるようステップアップするための研修

あなたの挑戦をサポートするNGO研修 ～持続可能な運営への第一歩～

期間：2025年9月18日（木）～2026年4月16日（木）

対象：NGO団体のスタッフやNGO活動にかかわったことのある個人

内容：A、非営利マネジメント講座 【コミュニティキャピタル診断】

B、先進事例の考察と意見交換

C、活動で抱える課題のシェアリング

名古屋NGOセンター、国際子ども学校、PHD協会、Global Bridge Network

D、組織および事業運営の強化につながる実践と伴走支援と成果発表

地球の木、トウマンハティふくおか、Global Bridge Network

A 非営利組織マネジメント講座（全3回）

（特活）CRファクトリー代表 呉哲煥さん

B 先進事例の考察と意見交換

1、支援者とのコミュニケーション

（特活）アラジ代表 下里夢美さん

2、メディアを活用した事業展開

（一社）DiVE.tv代表 牧野佳奈子さん

3、支援、協力者を増やすための取り組み

（認定）テラ・ルネッサンス創設者 鬼丸昌也さん

4、組織改革のための取り組み

（認定）アクセス理事長 野田沙良さん

- ・ 参加人数は単発の受講者も含めると40名（20団体以上）
- ・ 本来は連続講座としていたが、単発の参加もできるようにした
- ・ 講座をハイブリッド又はオンラインとしたので山形、愛媛、福岡からの参加者も
- ・ 講師陣の話がとても勉強になり満足度が高い
- ・ 他の受講者との繋がりができる事が良い
- ・ 組織の課題を共有することで、どこの団体も同じような悩みを抱えていることを知り、たとえ解決策が見つけられなくても一緒に悩んでくれる人がいることで安心できる。

主 催： 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 中部センター
企画運営： 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

事例紹介①

(ア) NPO法人キャンヘルプタイランドの国際協力の取り組み

スタディツアールにおけるNGOと高校教員による共創

特定非営利活動法人 キャンヘルプタイランド

タイやカンボジアの教育環境に恵まれない子ども達の支援
奨学金支援、校舎やトイレなどの建設支援、学生寮支援など
有給スタッフ0の極小NGO ボランティアスタッフ5名

カサロンの家

- ・ 山岳部で暮らす民族のための学生寮（チェンマイ）
- ・ 2005年にキャンヘルプタイランドが建設し、YCFが運営
- ・ それから、20年以上の支援と交流が続いている。

ユースチャリティ財団（YCF）

- ・ エイズ孤児院「希望の家」をタイ北部チェンマイで運営
- ・ 開設当初は大森絹子さんが指揮を執っていたが、肺がんで死去
- ・ ひとり残されたタッサニーさんが来日し、支援団体を探す
- ・ 名古屋でキャンヘルプタイランドを見つけ、交流開始（2003年）

津島高校とキャンヘルプタイランドがつながるきっかけ

- ・ 2017年?に愛知大学の職員の方が名古屋市主催の「ぼらマツチ」でキャンヘルプタイランドの活動に興味を示してくれる
- ・ 2018年?に愛大職員と教員がタイ現地視察
- ・ 2018年8月に愛知大学の学生を連れてカサロンの家へ
- ・ 2019年8月に第2回のボランティアツアーを開催
- ・ 2020年から2023年はコロナ禍で中止
- ・ 2024年に愛大ボランティアツアー復活
- ・ 2025年2月に愛大職員と津島高校の教員3名が現地視察
- ・ 2025年、津島高校と愛知大学が高大連携事業として、タイ・ボランティアツアーを開催 高校生9名、大学生21名が参加

NGOと教育機関の共創

キャンヘルプタイランド(NGO)にとって

現在まで培ってきた現地との繋がりを活用でき改めて
存在意義を確認 寮の運営資金援助

津島高校(教育機関)にとって

NGOの草の根ネットワーク利用することで、研修先を
新規で探すコストを抑え、現地の信用も担保される

学生にとって(日本もタイも、高校生も大学生も)

新しい視点 → 新たな価値観

NPOキャンヘルプタイランドの目標

「質の高い教育をみんなに」

4 質の高い教育を
みんなに



それは、教員も同じ → だからこそ共創できる